

JET からの手紙

けんてきいわ うが
涓滴岩を穿つ

～日本とフィリピン・ダバオ市の100年間の友好関係とその先～

大阪府泉南市教育委員会人権国際教育課 国際交流員
Kent Santos (ケント・サントス)

100年間の友情

姉妹都市といえど世界のどこにでもよくあるつながりです。しかし、世界大戦という厳しい状況乗り越え100年の友好関係の歴史を持つ姉妹都市は、大変珍しいものではないでしょうか。今回、私が国際交流員（CIR）として勤務する大阪府泉南市とフィリピン共和国ダバオ市は、その100年間の友情を受け継ぎ、2023年4月に姉妹都市協定を締結しました。

日本とダバオ市との関係の慎ましやかな始まりを以下にまとめ、どのような形でJETプログラム参加者がその友好的な歴史に関わっているかについて伝えます。

最初の一滴

ダバオ市と日本の国際関係の始まり

フィリピン日本歴史資料館によると、ダバオ市と日本の初めての接触はマニラ麻産業のため日本人がダバオ市に移住したときでした。ダバオ市のミンタル町で日本と同じような建築やコミュニティを作ったり、マニラ麻産業を容易にするよう新たな機械を作ったりしていました。

第二次世界大戦が始まり、アジア諸国の国際関係が悪化していた中、日本の意思を疑っていたマニラと違い、ダバオ市民は変わらず日本に友好的な感情を抱いていました。なぜなら、彼らにとって在ダバオ日本人は相互協力と利他主義のコミュニティのように見えていたからです。

しかし、戦争の火花はダバオ市の海岸にまで迫り着き、在ダバオ日本人が帰還しないと見えない状況になりました。残念ながらその帰還に日系二世は含まれていません

でした。

戦争が終わり、平和が戻ってくるはずが、戦争後の反日感情が残りました。その影響で、ダバオ市に留まろうと思っていた少人数の日本人が追放され、日系だということを隠すため苗字まで変えることを強いられました。それほどひどいことが起きたにもかかわらず、日本人二世・三世が集まり、ダバオ市に日本語と日本文化を勉強できる環境とコミュニティを作り上げました。



2022年11月に泉南市使節団がダバオ市を訪問

ささやかな滴^{しずく}

泉南市との友好関係

日本とダバオ市の友好関係には幾多の試練がありましたが、両国の協力と草の根団体の活動のお陰で乗り越えられました。現在、この長い歴史は「泉南市とダバオ市の姉妹都市締結」に続いています。

一見すれば、泉南市とダバオ市は共通点がありませんと思われるかもしれませんが、両市長の偶然の出会いと何年もの文化交流を通じて、今回の姉妹都市締結に至り

ました。共通点としては、両市とも空港に近く、国際理解や観光の活性化に力を入れることで、市民の利益を追求していることがあります。



ダバオ市の市議会での通訳

しづく 大きくなる滴

姉妹都市締結の歩み

姉妹都市締結に関する協議はずっと前からありましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響により、一時協議が中断されました。感染症に関する制限が緩和された際に、両市の文化交流が再開し、姉妹都市締結が改めて提案されました。その提案が具体的になったきっかけは、泉南市長と泉南市使節団が2022年11月にダバオ市を訪問して、ダバオ市長の協力を通じて合意書に調印したことでした。私も泉南市使節団の一員として参加し、経済と教育の草の根レベルでの協力について多様な市立・私立団体と協議するプロセスを見学しました。

両国の外務省の協力のもと、待望の姉妹都市締結に関する調印式が2023年4月に泉南市で行われました。このとき、フィリピン出身のCIRとして勤務している私が、多数のフィリピン政府機関との連携や企画などをしたり、書類と情報発信もバイリンガルで対応したりしました。

しづく 落ち続けている滴

CIRの文化交流

フィリピンと触れ合う機会は以上の姉妹都市締結のための業務に限りません。泉南市のCIR4人（フィリピ

ン、中国、ペルー、アイルランド）は教育委員会に配属されているため、教育の分野において幅広い活動に全力を尽くしています。自分の国や文化などを紹介する場として真っ先に思い浮かぶのは小中学校での出前講座ですが、それだけでなく幼稚園訪問も行っています。幼少期から外国人と交流することを通じて、お互いの違いよりも共通点に気づき、親近感が芽生えると思っています。また、学校から依頼されて、外国にルーツのある子どもたちの語学補助も定期的に行っています。

人と人の触れ合いは規模として小さいかもしれませんが、この方法で両市の友好関係をより深めることができます。そのように考えると、JETプログラムが国際交流にどれほど重要かは明らかであり、私が現在行っている活動も、ダバオ市と日本の100年にわたる歴史を受け継ぐものになっていると思います。こうして見ると、フィリピンと日本の国際関係は「涓滴岩を穿つ」ということわざでまとめられます。岩のように硬い壁ができ上がっても、小さな一滴一滴と確固不拔な絆でなんでも乗り越えられると信じています。



小学校でのフィリピン紹介

プロフィール



Kent Santos

(ケント・サントス)

フィリピン・パンパンガ州出身。フィリピン国立大学でフランス語を専攻しながら、日本語の勉強にも打ち込んだ。東京外国語大学にも1年間短期留学。異国を鏡として使い、自国の文化や習慣などの理解を深め、将来は地元の多様な民話と神話を世界に共有したい。